

老健旬

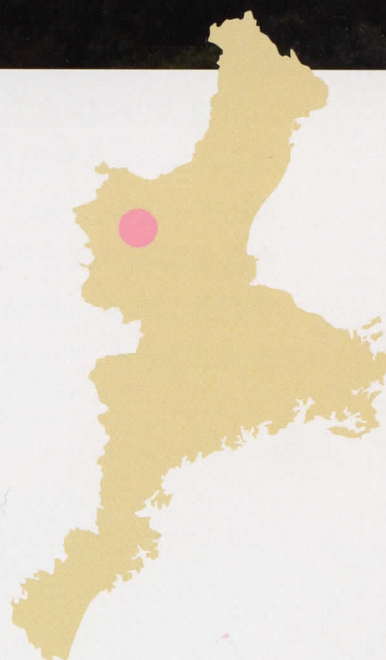


ROUKEN MIE

No. 29

平成23年10月発行

三重県老人保健施設協会



老健めぐり

CONTENTS

1	巻頭言 介護老人保健施設 つつじの里 理事長 永田 博一
2	スタッフからの一言 介護老人保健施設 鈴の丘 岡本 大地
2	介護老人保健施設 伊賀さくら苑 北村 恵美子
3	介護老人保健施設 伊賀ゆめが丘 福岡 理子
3	介護老人保健施設 上野の郷 山本 みさき
4	介護老人保健施設 弘樹苑 西野 恵里
4	介護老人保健施設 ことぶき 西田 京子
4	ヨナハ介護老人保健施設 水谷 和将・上田 幸優
5	名張市介護老人保健施設「ゆりの里」 中山 佳英
5	介護老人保健施設 ちゅうぶ 中谷 理栄
6	介護老人保健施設 ケアハイツ玉城 井端 香代子
6	老人保健施設 友愛トピア 門脇 里奈
7	介護老人保健施設 輝 寺田 誠
7	介護老人保健施設 みずほの里 佐藤 雅則
8	新入会施設紹介 「クローバー」
9	三重県老人保健施設協会研修会
10～13	三重県内老人保健施設地区別所在地案内
14	老健ペンリレー 『教訓』 介護老人保健施設 パークヒルズ高塚 施設長 石須 哲也

伊賀上野城

“忍者の里”と呼ばれる伊賀国は、山に囲まれた9里四方の小さな盆地、その中心は伊賀市である。街の北側の丘には、白亜三層の伊賀上野城が、静かな雰囲気醸しながら、端麗な姿を見せている。

現在の伊賀上野城（稚名白鳳城）は、昭和10年川崎克氏が私財を投じ、3年の歳月をかけて往時藤堂高虎が築いた基台に木造建築による模擬復興したものである。

介護老人保健施設 輝

施設長 寺田 誠

新米施設長より一言

開業医として35年ほどの世間知らずの井の中の蛙が少しちがう世界を垣間見ようと引き受け三カ月が過ぎようとしているところです。

この世界に足を踏み入れ今感じ思うままに一言。確か私の貧弱な理解力しかない頭にあった老健施設の定義は「三か月を目標に、病状が安定している要介護者を対象に、入所者の能力に応じた自立と自宅での生活復帰を目指し、日常生活の世話や、看護、医療、リハビリテーションなどのサービスを提供する施設」であり生きる目的と希望を持った入所者を思い浮かべて第二の人生を歩き始めたとたん厳しい現状を目にし、体験し始めております。かつての日本にはおじいちゃん、おばあちゃんを含めた家族があり、たとえ多少の身体的障害ボケがあっても家族に助けられ、見守られ亀の甲より年の功でそれなりの存在感、居場所があったように思います。おりしもこの草稿中そばのテレビで認知症の新薬が発売されたことを放送しております。認知症入所者を多く抱かえている老健施設で諸手を上げ歓迎出来るのかと思うと何かむなしい感じがするのは私だけでしょうか。

なにはともあれ入所者の健康と残りの人生の希望と目標探しに役立てばと思っております。



介護老人保健施設 みずほの里

事務局長 佐藤 雅則

私は、1994年4月から介護老人保健施設みずほの里の設立委員として開設に携わり、2001年9月に事務局長に就任いたしました。以来、施設内での総合的管理と地元行政や他施設との連携の構築、関連業者との折衝、各種許可申請などの対外的業務を行ってきました。さらに、数年前からは、リスクマネジメント(RM)関連業務も重要な責務と考え、些細な苦情の掘り起こしにも積極的に取り組んできました。その過程で、介護老人保健施設を取り巻くリスクは多様で、自然災害のみならず、人為的側面を持つ転倒転落事故、施設内感染、ご利用者の個人情報漏洩、ご利用者やご家族とのトラブル、関係機関との連携ミスなども少なからず発生し、しかも、それぞれが互いに関連することを



筆者は右

知りました。

ご承知のように、全国老人保健施設協会により、リスクを包括的に把握し、事後対応だけでなく、事前にリスクを視野に入れてRMを行うことができる人材を養成する制度として、2008年度に「介護老人保健施設リスクマネージャー」という資格認定制度が創設されました。私も、RM能力の向上と資格取得を目指して2010年度に受験し、第Ⅲ期生として認定されました。2011年7月の時点で、有資格者は、全国で約700名、三重県内で約10名とのことです。

私が養成研修で学んだ事柄のなかで、特に強いインパクトを受けたのは、「より質の高いサービスを提供することによって多くの事故を未然に回避する」という発想で、まさしく「目からうろこ」でありました。現在では、「視点を変えたリスクの回避」も選択肢のひとつとして、同僚職員とともにRMを実践しています。

当施設は、益々多様化するニーズに対応するうえで、さらなるRMの量的拡大と質的向上が必要不可欠であると認識し、新たに3名の有資格職員の誕生を目標としています。私も、後進を支援し、施設におけるRMのうえでも中心的役割を果たせるよう努力する所存です。

